

## 松本地域（松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村）

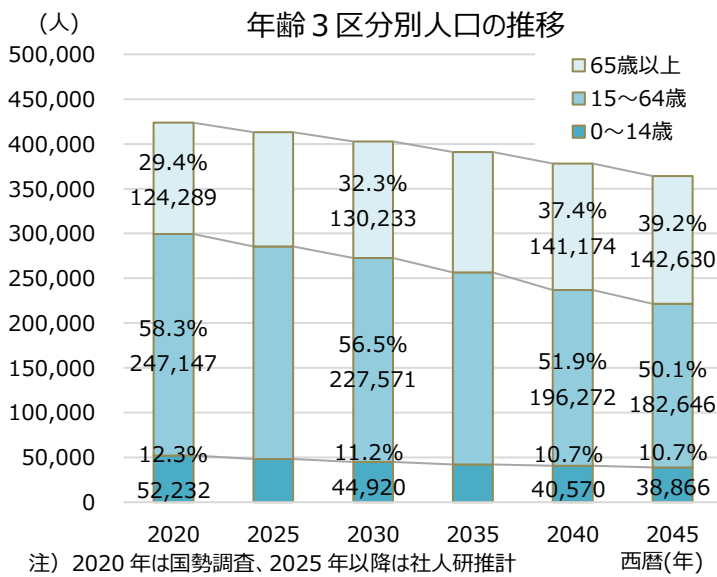
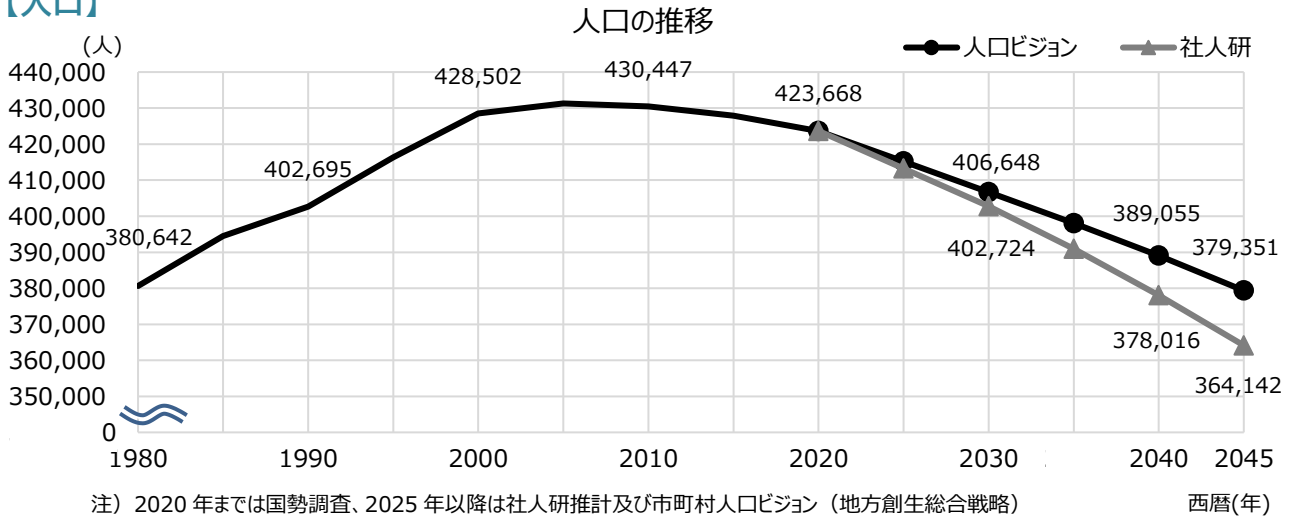
### 松本地域の特性

- ・長野県の中央部にあって、上田、諏訪、上伊那、木曽、北アルプス、長野の6圏域と接しており、経済や観光等、幅広い分野での地域間交流・交通等におけるハブ（中心、中核）としての利便性を有しています。
- ・長野県の空の玄関口である「信州まつもと空港」を有しています。
- ・大規模地震の発生確率が高い糸魚川－静岡構造線断層帯や、焼岳・乗鞍岳の活火山が存在します。
- ・上高地や松本城、奈良井宿、安曇野わさび田湧水群等の著名な観光地や、ワインやそば等、ブランド力の高い観光資源が豊富に存在します。

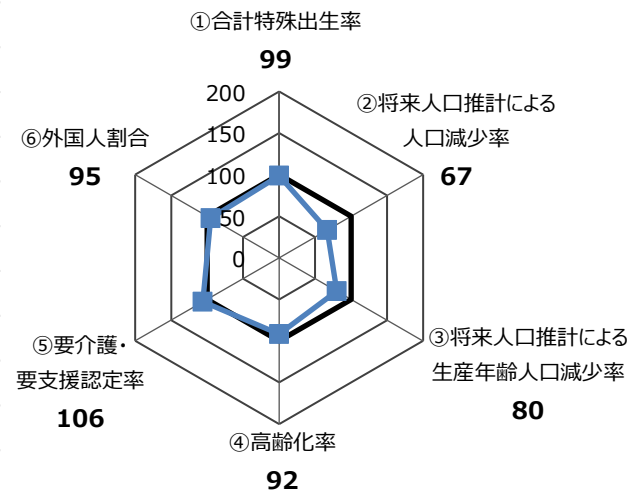
### 【管内の概況】



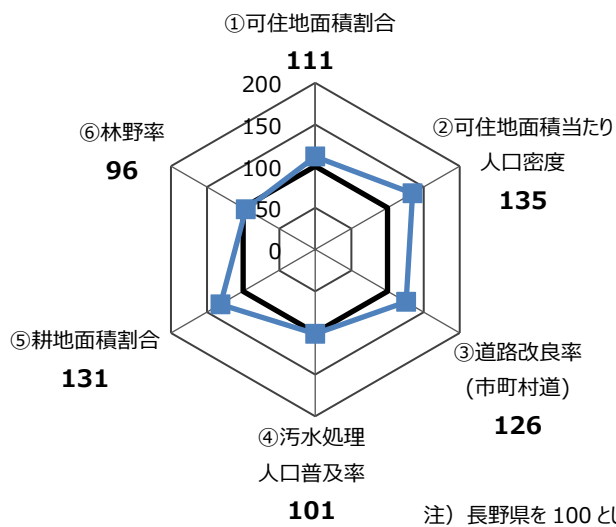
## 【人口】



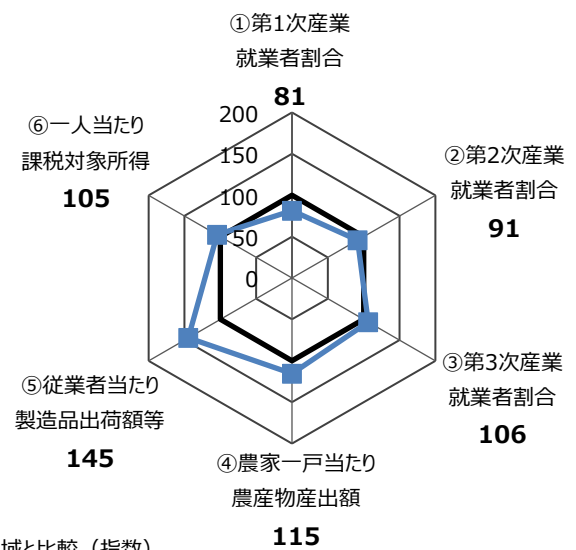
## 【地域の特徴（人口）】



## 【地域の特徴（地勢）】



## 【地域の特徴（産業）】



- ・人口は長野県全体の約20%を占めており、人口減少率は県平均よりも低くなっています。
- ・産業は第3次産業就業者割合、農家一戸当たり農産物産出額、従業者当たり製造品出荷額等において、県平均よりも高くなっており、ブランド農畜産物等の生産や精密機械工業等の発達、観光関連のサービス業等、当地域の特性を活かした農業や工業、商業が発達・充実しています。

人々が生き、賑わいあふれ、快適で暮らしやすい信州の中心「松本地域」

- ・長野県の空の玄関口である信州まつもと空港が観光・交流の拠点として親しまれています。
- ・松本地域の住民や市村等が一体となって、災害の発生に備えた危機管理体制が構築されています。
- ・国内外から多くの方が松本地域に訪れ、山岳高原観光による賑わいが創出されています。
- ・長野県の中央部における広域ネットワークの構築に向けた道路網の整備が進められています。
- ・松本地域の特性を活かした取組や産業が充実し、快適でゆたかな暮らしが営まれています。



地域重点政策

1 信州まつもと空港の利用促進と拠点整備の推進

長野県の空の玄関口である信州まつもと空港について、観光・交流拠点として周辺施設と一体となった賑わい創出や、施設機能の整備・強化等に取り組みます。

【現状と課題】

- ・長野県の空の玄関口であり、交流ネットワークの核として、地域住民の理解や期待のもとに、「信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針」の実現に向けた取組が求められています。

【取組内容】

● 空港を利用して来県される観光客の周遊観光振興

- ・信州まつもと空港を利用して来県される方に、松本城や安曇野わさび田湧水群、ワインやそば等の豊富な観光資源を提供し、滞在型の周遊観光を促進するため、松本地域以外の圏域の地域振興局（諏訪、木曾、北アルプス等）と連携したレンタカー利用促進キャンペーンの実施や、空港を発着点とした山岳観光プランの開発、市町村による観光PR事業に対する支援等により、空港を利用した観光需要を拡大



信州まつもと空港のFOD機

● 空港利用の促進

- ・ウィズコロナ時代以降における観光やビジネス需要に対応した既存路線の拡充、沖縄県との交流促進事業等を活かした新規路線の開設、国際路線におけるチャーター便の再開や定期便の誘致等により、一層の空港利用を促進

● 空港の魅力向上と周辺施設の整備

- ・第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会の総合開・閉会式及び陸上競技等の会場となる松本平広域公園の整備を進め、スポーツの振興や賑わい・交流の拠点として活用
- ・空港周辺環境改善の取組として、地元住民団体とのアダプト\*協定等に基づく植栽や除草といった道路美化・愛護活動を信州ふるさとの道ふれあい事業等により支援

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
信州まつもと空港利用者数 (企画振興部調)	130千人 (2021年度)	267千人 (2027年度)	信州まつもと空港発着便（定期便・チャーター便）の年間利用者数 [国内路線の拡充、国際路線の新規開拓などにより、過去の最高値（1996年度：265千人）を上回ることを目指して目標を設定]

## 2 大規模地震・噴火・水害等の発生に備えた対策の充実・強化

松本地域の住民や市村等が一体となって、大規模地震等の災害の発生に備えた対策に万全を期し、安全・安心を確保するための危機管理体制を構築します。

### 【現状と課題】

- ・牛伏寺断層を含む糸魚川－静岡構造線断層帯は、30年以内にM7.6程度の地震発生確率が14～30%と全国主要活断層の中で最大です。また、当地域には活火山である焼岳・乗鞍岳があり、火山活動の活発化や、近年多発している豪雨等と合わせ、自然災害が広域的・激甚的・複合的に発生するおそれが高まっています。普段から防災・減災に対する県民意識を高め、地域社会全体で災害への備えを強化するための対策が急務となっています。

### 【取組内容】

- 防災意識や災害対応能力の向上
  - ・豪雨や地震、火山噴火等の自然災害に対して、起こりうる被害を住民自身が想定し、自主的に行動できるよう、講演会やワークショップ等による防災教育や学習機会を創出するとともに、災害リスクに対応した実践的な防災訓練の実施等を支援
  - ・管内市村における避難行動要支援者の個別避難計画\*作成に対する支援や住宅の耐震化に向けた啓発等を実施
  - ・医療機関や医療従事者が偏在している状況を踏まえ、災害時の広域的な医療連携が円滑に行われるよう、管内市村による合同医療救護訓練等を支援
- 県土強靱化の推進
  - ・乗鞍岳火山緊急減災対策砂防計画に基づく予防対策として、乗鞍岳火山砂防事業を実施
  - ・松本地域の河川や道路について、災害の発生に備えた流域治水\*の取組や土砂災害対策、災害時における国道158号、国道403号といった管内道路の通行や迂回道路の確保等、防災機能の強化に向けた整備を推進
  - ・国土強靱化基本計画に基づく、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として、橋梁・トンネルをはじめとする管内の道路や河川等の施設について、予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策を進めるとともに、山地災害危険地区等における治山事業、防災重点農業用ため池における耐震点検等を実施



国道158号狸平トンネル工事(松本市)



黒沢川調整池の整備(安曇野市)

### 【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
地区防災マップ作成地区数 (松本建設事務所、安曇野建設事務所、犀川砂防事務所調)	39地区 (2021年度)	65地区 (2027年度)	災害時住民主導型警戒避難体制構築のための地区防災マップ作成地区数 [過去の実績を考慮し目標を設定]
緊急又は早期に対策が必要な橋梁における修繕等の措置完了率 (松本建設事務所、安曇野建設事務所調)	22% (2021年度)	100% (2027年度)	2014～2018年度の点検で緊急又は早期に対策が必要と確認された橋梁のうち修繕等の措置が完了した割合 [修繕等の措置がすべて完了することを目標に設定]

### 3 中部山岳エリアにおける広域的な観光振興と交通網の整備

松本地域や県内各地域、隣接県に存在する豊富な観光資源を活用した広域的な滞在型の周遊観光振興に取り組みます。また、長野県の中央部における広域ネットワークの構築に向けて、利便性や機能性を備えた道路網の整備に取り組みます。

#### 【現状と課題】

・長野県、岐阜県、富山県、新潟県にまたがる中部山岳国立公園は、日本を代表する景勝地として人気がある上高地を有し、国内外を問わず多くの観光客が来訪しています。このような恵まれた自然環境を背景とした中部山岳エリアの観光資源を活用して、広域的な観光振興や地域活性化に取り組むことが求められています。

また、松本地域における交通基盤の一つである道路網について、広域的な交流圏の形成に向けた利便性の向上や緊急時における機能性の確保等、一層の整備推進が求められています。

#### 【取組内容】

##### ● 県内各地域や隣接県と連携した広域的な観光振興

- ・松本城、奈良井宿、安曇野わさび田湧水群等の松本地域の観光資源を活かした滞在型の周遊観光ルートを創出。その際、高山、白川郷、立山黒部アルペンルート等の観光資源と連携した取組を行い、山岳高原観光地として一層の魅力向上を推進
- ・松本地域の観光資源や近代化遺産等を集約したカードマップの発行等により、当地域の魅力発信と観光誘客を促進



上高地(松本市)



松本城(松本市)



奈良井宿(塩尻市)



蓼川水車小屋(安曇野市)

##### ● 広域連携の促進を目指した道路ネットワークの整備

- ・長野県の中央部に位置し、多くの県内各地域や隣接県と接する地理的特性を有することから、多方面との交通アクセスや利便性の向上、緊急時における機能性等を確保するため、中部縦貫自動車道の整備を促進するとともに、松本系魚川連絡道路（安曇野道路）、国道 143 号青木峠トンネルや国道 158 号等の幹線道路の整備を推進

#### 【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	210 億円 (2021 年)	370 億円 (2027 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [コロナ前水準(2019年)を超えるように目標を設定]
延宿泊客数 観光地利用者統計調査（観光部）	1,648 千人 (2021 年)	3,045 千人 (2027 年)	管内観光地の延べ宿泊客数 [コロナ前水準(2019年)を超えるように目標を設定]



## 4 地域ブランドを活かしたゆたかな暮らしと移住への取組

松本地域の利便性の高い地理的特性や、充実した産業基盤等をセールスポイントにした移住・定住を促進するとともに、持続可能な地域づくりに対する支援を行います。

### 【現状と課題】

- 松本地域の産業は、ほ場整備された農地における信州ブランドの野菜や果物等の効率的な生産、精密機械関連産業を中心とする最先端の技術や人材、拠点施設の集積等により、経済環境について優位性があります。また、管内の各市村において、山岳資源や農村資源等を活用した特徴的・モデル的な取組による地域活性化が行われており、これらと連携して当地域の暮らしの魅力を発信し、更なる移住促進やゆたかさを実感できる地域づくりに取り組むことが求められています。

### 【取組内容】

#### ●特産品等を活かした産業振興

- 松本地域で生産が盛んな信州ブランドの農畜水産物（信州プレミアム牛肉、信州サーモン、りんご、ぶどう等）の安定生産や販売促進を支援
- 農産物の品質管理や安定生産、森林整備における作業の効率化・安全性の向上等を促進するため、牛の分娩監視システム、高性能林業機械、除草剤用ドローン等のICT\*（情報通信技術）を活用した取組を支援
- 精密機械工業における部品供給基地として最先端の技術、人材、拠点施設等が集積しており、また、県の中央部に位置し、広域的な交通や物流の利便性を有する松本地域の特性を活かし、事業拡大等に向けた工場等の立地を行う事業者に対する支援制度を整備し企業誘致を推進



信州サーモン

#### ●移住・定住の促進と中山間地域の魅力向上

- 管内市村と連携し、コワーキングや事業伴走の機能を有する「スナバ」（塩尻市）等の充実したビジネス環境と、快適な住環境をセットで発信する移住相談会の開催等により、移住・定住を促進
- 松本南西部地域で発生する風食被害\*に対して、砂塵発生の抑制技術の検討、新たな緑肥作物の栽培等による被覆といった防止対策の実証実験等を行い、耕作地域の美しい景観と快適な住環境の整備を推進

#### ●地域の特性を活かした持続可能なまち・むらづくりへの支援

- 松くい虫被害枯損木の資源化等を支援するとともに、生活必需品等の木質製品への転換（ウッドチェンジ）やカラマツの主伐等による素材生産を行い、脱炭素社会の構築と産業振興を推進
- 松本地域の市村が取り組む脱炭素化に向けた先進的・モデル的なプロジェクト等に対する協力や支援を行い、持続可能なコミュニティの構築や2050ゼロカーボンの実現を推進
- JR中央東線・中央西線・篠ノ井線・大糸線、アルピコ交通上高地線等の軸となる公共交通が充実していることから、面的に展開される市村のコミュニティバス等と連携して一体的な利便性の向上を推進

### 【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
果樹県オリジナル最新品種の栽培面積 (農政部調)	24.5ha (2021年度)	44.3ha (2027年度)	シナノリップ、クイーンルージュ®の栽培面積の集計値 [農政部の達成目標を基に設定]
信州サーモンの稚魚供給量 (水産試験場調)	35万尾 (2021年度)	40万尾 (2027年度)	信州サーモンの稚魚供給尾数(県全体) [稚魚供給計画量を基に設定]
工場立地件数 工場立地動向調査(経済産業省)	28件 (2017~2021年累計)	30件 (2023~2027年累計)	事業者が工場等を建設する目的で、1,000㎡以上の用地取得を行った件数 [6件/年の増加を目標に設定]